

第8回総務文教常任委員会会議録

平成28年7月15日（金）

開 会 午前 9時00分

閉 会 午前 9時42分

○会議に付した事件

1. 町からの協議・報告事項について

●総務課

①第24回参議院議員通常選挙結果について

②熊本地震義援金について

●生涯学習課

①緑町小学校の閉校について

②清里高校の間口対策について

2. 次回委員会の開催について

3. その他

○出席委員（7名）

委員長 勝 又 武 司

副委員長 加 藤 健 次

委 員 村 島 健 二

委 員 池 下 昇

委 員 河 口 高

委 員 堀 川 哲 男

委 員 伊 藤 忠 之

※議長 田 中 誠

○欠席委員 なし

○説明のため出席した者の職氏名

■総務課長 澤本 正弘

■総務G主幹 梅村百合子

■管財G総括主査 三浦 厚

■生涯学習課長 伊藤 浩幸

■社会教育主幹 原田 賢一

○職務のため出席した者の職氏名

事務局長 小 貴 信 宏
主 査 寺 岡 輝 美

●開会の宣告

○勝又委員長

第8回総務文教常任委員会を開催させていただきます。

○勝又委員長

大きな1番、町からの協議報告事項総務課2点ございます。まず1点目、第24回の参議院通常選挙結果について。課長。

○総務課長

総務課より2件第24回、参議院選挙の結果、そして熊本地震の義援金について担当よりご報告をさせていただきますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○勝又委員長

担当。

○総務課主幹

それでは第24回参議院議員通常選挙の結果について報告いたします。1ページをご覧ください。7月10日投開票の第24回参議院議員通常選挙の選挙区及び比例代表の投票率等を掲載しております。選挙区比例区とも同じ数字ですので、上段の選挙区の表で説明させていただきます。

まず、当日の認定者数ですが、第1投票区が男女合わせまして、2,855。第2投票区は623。第3投票区は183。合計3,661人です。期日前投票の数につきましては、清楽園老健などの不在者の数も入っておりますが、第1投票区につきましては808。第2投票区につきましては92。第3投票区は18。計918名。当日の投票所において、投票した方は、第1投票区が1,213。第2投票区が330。第3投票区が119。合計1,662。期日前と投票所の数をあわせまして、第1投票区が2,021。第2投票区が422。第3投票区が137。合計2,580人です。

投票率におきましては、第1投票区が70.79。第2投票区が67.74。第3投票区が74.86。合計いたしまして、70.47%です。この数値につきましては、前回平成25年の63.3%と比べまして7.17%の増となっております。

なお今回から18歳から19歳が年齢引き下げされました。この中の数値を拾い出しまして、当日の有権者につきましては、男39、女36の75名です。そのうち投票された方につきましては、男15、女11、計26名となりまして、投票率につきましては、合計で34.67とな

っております。以上報告いたします。

○勝又委員長

ただいま第24回の参議院議員選挙結果についての報告がございました。議員の皆さま方。

○勝又委員長

河口委員。

○河口委員

18歳～19歳の数字というのは、物理的に例えばここに住んでいなくて、住所があるということの人数は出ているんですか。

○勝又委員長

担当主幹。

○総務課主幹

清里町につきましては住民票のある方について選挙の登録をしておりますので、そこまでの詳しい数字については把握できておりません。

○勝又委員長

よろしいですか。

○河口委員

非常に残念な数字だという気がします。

○勝又委員長

堀川委員。

○堀川委員

今の河口さんに関連してですけれども、幾つかの町村の中では、実態がない、住んでいないということで、選挙権のことで問題になったりしたんですけども、清里町の場合、そのような検討ですとか、今後どうするという事は話し合われているんですか。

○総務課主幹

あくまでも根拠となるものを住民基本台帳にしております。新聞報道されていた登録を抹消としたところにつきましては、事前にはがきで確認するとかということをした上で、していたようですけども清里につきましては、そのようなことを考えてはおりません。

○堀川委員

これからも。

○総務課主幹

はい。

○勝又委員長

他、委員さん。課長。

○総務課長

今の関係の補足でございますけども、今回生活実態はないということで、ある町村では名簿からは外しているという町村があったということで聞いております。今後総務省の方でその辺の扱い、今のところ各選管にある程度おまかせしますよというようなちょっと曖昧さもあるものですから、総務省の方で今後いろんな形で検討されてきて、明確な方向性が出てくるのかなというふうに考えてございます。それに基づきまして適切には対応していきたいというふうに考えます。

○勝又委員長

他、委員さんありませんか。池下委員。

○池下委員

今回から江南の投票所がなくなって、3投票所にしたんだけど、その辺の影響は余り関係ないんですか。

○勝又委員長

課長。

○総務課長

今回第4投票区を第1投票区に統合させていただいたという関係で、この結果をみていきますと、第1も70、79ということで、ある程度投票率があるというふうに私ども認識しておりますので、今回につきましては統合による影響は少ないというふうに考えてございます。

○勝又委員長

なければ終わります。②熊本地震義援金について。担当主幹。

○総務課主幹

熊本地震の義援金についてです。4月14日に発生いたしました熊本地震で、被災された方々の義援金として、6月の定例議会補正予算で可決いただきました。この100万円につきまして、7月5日に熊本県町村会へ送金したところであります。熊本県町村会からは、熊本県の町村を代表してのお礼ということで、7月11日に文章をいただいております。

○勝又委員長

ただいま熊本の地震についての義援金について説明がございました。委員の皆さんありませんか。1番、2番通してありませんか。なければ、終わりたいと思います。ご苦労様でした。

続きまして生涯学習課2点ございます。①番緑小学校の閉校について。生涯学習課長。

○生涯学習課長

議案の一番、緑町小学校の閉校につきまして、1ページをご覧ください。先月の常任委員会におきまして口頭により、この関係につきましては説明させていただきましたが、現在までの経過につきまして、文章にて経過説明の方をさせていただきたいというふうに思います。

先月の口頭で説明した部分と重なりますけれども緑町小学校におきましては、緑町小学校児童の現保護者とこれから緑町小学校に入学予定の子供を持つ保護者で構成いたします学校を考える会を組織しまして、昨年の6月から学校の存続についての話し合い協議が24回行われてございます。この緑地域の山村留学推進協議会、自治会役員などの地域との協議を進めまして、5月の27日でございますけれども臨時のPTA総会を開催されてございます。緑町小学校につきましては、全世帯がPTAに加入されておりまして、臨時総会の中で閉校年度は、平成29年度。統合先は清里小学校ということを決定されました。その後でございますが、自治会長、緑町小学校PTA会長、緑町小学校校長が6月13日に先月の常任委員会開催された時でございますけれども、そのときに町教育委員会に対しまして、臨時総会での決定事項であります平成30年3月の閉校と清里小学校への統合を要望する申し出が行われたところでございます。また町長、教育委員長あての緑自治会長と小学校PTA会長によります連名の緑町小学校閉校に係る要望の文章が6月16日付けで提出されたところでございます。その後でございますけれども、案件、緑町小学校閉校にかかる要望でございますけれども、これにつきましては総合教育会議で協議すべき教育の諸条件の整備など重点的な課題・施策でありますので、7月の1日に町長の招集によりまして総合教育会議を開催し、意見交換協議を行ってございます。総合教育会議の中でございますけれども、町長からは地域の考え方、方向性を尊重したいとの話がありまして、教育委員会で審議し、教育委員会としての閉校についての方向性を出すことと、この教育会議の中ではあったところでございます。それを受けまして、教育委員会では一番下になりますけれども、7月13日でございますが教育委員会としての方向性を決めるために第7回教育委員会協議会の中におきまして閉校についての協議を行ってございます。教育委員さん各委員からはいろんな意見がございました。子供の学び教育環境として、今後存続は厳しい。児童数等の実情を考えた場合やむを得なく、緑地域の要望を尊重すべきとか少人数学校の良さがあるが、子供のためを考えると統合が望ましい。統合先についてやや疑問は残るが、将来を見据えた場合はと考えるというような、様々な意見がございました。最終的には教育委員会として地域の総意であり、決定事項である要望事項を重く受けとめまして、尊重するという意思統一決定をしたところでございます。

今後におきましては再度総合教育会議の中で、町と協議を進め、町が最終判断をすることになるかというふうに思います。

以上経過報告ということで、緑町小学校の閉校についての現在までの経過報告をさせていただきました。以上でございます。

○勝又委員長

ただいま緑町小学校の閉校についての説明がございました。委員の皆さま方からありませんか。加藤委員。

○加藤副委員長

前回の委員会の中でも最後に一言言ったんですが、同じことなんです、緑小学校の廃校問題については、地域の要望に沿って進めていくという形で良いのかなと思いますが、そういう中で光岳小学校の問題。光岳小学校を無くす、無くさないでなく、光学小学校に通っている生徒が実質緑の子供たちが光岳でなく、清里の小学校に通うということになるわけですので、光岳の地域の子供たちが清里小学校に通いたいという問題点をどういうふうにクリアしていくのか。いきなり光岳小学校の存続廃校だとかそういう問題でなくて、そこに通っている子どもたちが、自主的にそういうふうになったときの対応策。この辺についての考え方もきちっと整理させていただきたいと、このように思います。

○勝又委員長

課長。

○生涯学習課長

今の光岳小学校の関係でございますが、光岳小学校については先の常任委員会でもお話をさせていただいたところでございますけども、アンケート調査等を実施しまして、まず統合等も含めまして、今後のあり方について、今現在保護者それから光岳小学校に入学する予定の子供を持つ保護者に調査を行っておりますので、その計画を踏まえてそちらの方については、また地域と協議を進めていきたいというふうに思っております。加藤委員が言われた関係の質問でございますけども、光岳小学校に通っている子どもたちが清里にという関係でございますけども、今現在の教育委員会で持っている要綱の中では、校区というものが決まっておりますので、原則光岳小学校に通学する校区にいる方については、本来校については光岳小学校になるということでございます。ただそこについては指定通知の後、変更もできるというような規定もございますので、その中については今ある要綱の中を照らし合わせまして、教育的配慮また要綱の中でその変更を認める事柄が決まっておりますので、それを踏まえて判断をしていくのかというふうに今のところは思っております。

ただ今後緑町小学校が、先ほど言いましたとおり光岳小学校ではなく、清里小学校に通うというようなことが、今後進んでいくというふうに思いますので、その辺、光岳小学校の子供たち、親の考えを十分検討しながら教育委員会としても慎重に、その辺協議を進めていきたいと思っています。

○勝又委員長

加藤委員。

○加藤副委員長

意味合いは十分解るわけですが、通っている生徒全員がどうのこうのという問題ではないかなというふうに思う。一部の生徒が通いたいと言った場合に、この辺の処置をどうしていくのかと、全体として統廃合とかそういういろんなことが、正式に決まっていくのであれば良いけれど、そうでなくて存続となった場合に、できれば私はと言う子供がいたとした時の対応を慎重にしないと、何かちぐはぐになってしまうなということがあるので、その辺あわせての協議になると思

ますが、その最終的に十分な計らいをしていただきたいな、このように思います。

○勝又委員長

課長。

○生涯学習課長

一部の親の関係で例えば、個人の方が通いたいという場合については、先ほども言いましたけれども要綱がございますので、指定校変更を認める場合の要綱等にまずは照らし合わせて、保護者と相談しながら、教育委員会で決定していくというふうに、まずはなろうかなと思いますが、今言われたとおり緑の統合の関係もありますので、慎重に教育委員会としても協議をすすめていきたいと思います。他、委員。河口委員。

○河口委員

内容は緑町小学校の問題なんで、光岳とのリンクは考えられるんだけど、今は緑町小学校。光岳についてやると委員会がこんな方法でっていうことは先走りになる。やはりあくまでも緑町小学校の将来ということだけで、先に光岳小学校のリンクについては、少し控えたほうが良いのかなと。

○勝又委員長

課長。

○生涯学習課長

今回の事案としましては、確かに緑町小学校の閉校についてということございまして、こちらから議題として提案させていただきました。先ほど当然緑町小学校統合になるということは、残された複式校が光岳小学校ということもありますので、副委員長も言われたこともそうですし、河口委員さんから言われたことも当然かなというふうに思いますけども、今回の議題は緑町小学校ですけども、総合的には子供たちの教育環境をどうしていくかということを含めて、教育委員会で今後慎重に協議を進めていきたいと思っていますところでございます。

○勝又委員長

他、委員さん。なければ進みます。②番清里高校の間口対策について。

○生涯学習課長

議案の②でございます。清里高校の間口対策ということで、まず、議案の2ページを、ご覧いただきたいというふうに思います。2ページにつきましては5月に実施いたしました高校進学に関するアンケート調査でございます。先月の常任委員会で、清里高校の希望者については口頭説明させていただきましたが、結果がまとめたので、今回文章にて報告をさせていただきます。

2ページ1番の調査の目的でございますけども、記載のとおり北海道教育委員会に対し、平成29年度以降における清里高校の募集定員の増の要望を検討するにあたり、清里中学校及び小清水中学校生徒の進路希望状況を把握するとともに、清里高校の総合支援対策事業の内容を検討す

るために内容検討のための参考とするために実施をしたところでございます。

2番の調査の概要でございますが、調査の対象は清里中学校それから小清水中学校の全校生徒。それから今年、清里高校に入られた高校1年生でございます。調査方法それから期間については記載のとおりでございます。また学校別及び合計の生徒数、回答数、回収率も記載のとおりでございます。2の①現在考えている希望進学先の設問に対しまして、数字の下の太字で記載をしてございますが、来年高校に進学する中学校3年生の希望状況は、清里高校に清里中学校が13名、小清水中学校13名の計26名。斜里、網走の高校を希望する生徒が23名、清里、斜里、網走以外の高校を希望する生徒が14名と、現在ではなっておりまして、その他が3名、わからないが4名というふうになってございます。なお、清里中学校を見ていただきますと、現段階の数字ではございますが、清里高校を希望する2年生が17名、1年生が20名とだんだん増えている状況でございます。

この表の②でございます。清里高校が1学年2間口になった場合に、清里高校を希望するかを清里高校以外を希望している生徒に質問をしてございます。これについても太字で記載してございますが、清里高校を希望すると答えたのが2名、わからないと答えた生徒が15名と、この調査ではなっております。

3番太字で書いてございますが、その他の欄をご覧ください。アンケートの自由記載欄、4ページもつけてございますが、この中で来年度は清里高校希望者が多く、あきらめる人がいるので募集定員を増やしてほしいとの意見があったため、現状では定員まで余裕があることを、学校を通して伝えてございます。その後6月28日現在におきまして各中学校で、3年生の進路状況を調査したところ、清里中学校では清里高校を希望する人は17名。小清水中学校では20名。斜里中学校2名。合計39名が清里高校を希望していることがわかります。このため再度、清里高校が2間口となった場合の希望状況を調べることにいたしまして、今週に入ってでございますが、再度調査を実施中でございます。なおこの関係につきましては、7月8日、教育長の岸本が北海道教育委員会に行きまして、現在の清里高校の希望者も含めまして2間口の可能性等につきまして道教委と協議等を行っているところでございます。なお今月の20日にも高校の地域懇談会がございますので、その中においても、清里町の方から発言をしてほしいという話もされているところでございます。

3ページをご覧ください。3ページはアンケート調査の推計表でございます。小さくて見づらいかと思いますけれども、主だったところのみ説明させていただきます。問い3、清里高校を希望する、または選んだ理由でございます。これからの子供たちということで、清里・小清水の合計を見ていただきたいんですけども、数値からみますと①②③は重視する、希望する割合が高い順にこの設問に対して、3つまで選択をしていただいているということで、ご理解をいただきたいというふうに思っています。先ほど言いましたとおり問い3の清里高校を選んだ理由でございますけれども清里・小清水の合計の3年生のところを見ていただきたいと思うんですけども、ここで回答が多かったところが、1番の地元の高校だから、とか2番の金銭的支援が多い、3番の進学に向けた支援が充実、7番のニュージーランドへ行ける、10番の送迎バスがあるというような回答が主に高いものでございました。その横に網かけで清里高校となっておりますが、これは清里高校に今年入った1年生でございます。その生徒にも、清里高校を選んだ理由を聞いてございますが、この中でも、回答が多かったのは、先ほどと重複しますが、清里高校の子供たちは、地元の高校が2番の金銭的な支援が多い、3番の進学に向けた支援が充実、それから少人数指導

を受けられる、7番のニュージーランドに行ける、10番の送迎バスがあることが回答として多いところでした。それから問い7でございますけども、現在実施しております町の支援対策で良いと思う事業ということで聞いているところでございます。清里中学校3年生のところで見てくださいと思いますけども、3番の資格取得対策費補助、5番のニュージーランド短期長期留学、11番の学校給食の提供。これらが多くなっているところでございます。小清水の中学校が網かけになってございますけども、ここで多い回答につきましては、2番の進路指導強化対策費補助、ニュージーランド短期長期留学、通学支援やはり小清水からの中学生ということの通学バスの運行。それから学校給食提供。これらが回答というふうになっております。一番右、一年生に聞きましたけども良いと思う支援につきましては、これについても3番の資格取得対策費補助、ニュージーランド短期長期留学、それから8番の通学支援、11番の学校給食の提供、これらが良いというふうに書いているわけでありまして。

4ページには各設問におけますその他の記載内容、それから枠でかこんでありますけれども、自由記載欄の記載内容を添付してございます。自由記載欄の中で、清里中学校生徒の意見としまして部活動が少なく、選択肢が少ないとか、たくさんの助成があり魅力的であるが、友達が幼少のころからの続きで新しい環境に行きたいと思う。給食費を無料にして欲しいという意見があります。2つ目の黒丸、小清水中学校の生徒の意見としては、募集定員を増やしてほしい。先ほども言いましたけども、来年は清里高校希望者が多く、あきらめる人もいます。それから部活動増やしてほしいですとか、倍率を上げないでほしい。進路指導強化対策費補助には特に良いという御意見がありました。清里高校1年生の意見でございますけども、清里高校は町からの支援が多くとても良いと。そして少人数の高校だから出来ることと思えます。他、バスの関係についての要望等が多いところがございます。

続いて5ページをご覧くださいというふうに思います。5ページにつきましては、昨年ご協議させていただきまして、27年度からの高校の総合支援対策事業、本年度から進めてございますが、これにつきましては、1番の高体連出場経費補助、2番進路指導強化対策費補助、3番資格取得対策費補助、4番入学支度金補助、ニュージーランド短期長期留学、特色ある学校づくり推進事業補助、大学等入学資金貸付、8番、町外からの通学支援、9番国公立大学入学者支援、10番英語教育の推進強化、11番学校給食の提供ということで、昨年、大幅に見直しをさせていただきましたが、これにつきましては引き続き実施を進めていきたいというところでございます。

以上簡単でございますが、今現在の清里高校の希望者数も含めまして、間口対策ということで説明をさせていただきました。

○勝又委員長

ただいま、清里高校の間口対策についての説明がございました。委員の皆さま。
伊藤委員。

○伊藤委員

いまの説明を聞いて、次年度ですか現段階で39名希望者があると大変喜ばしい事かなと思っております。聞きたかったのが、7月の4日に教育長が道教委の方に出向かれて、次年度多くなるので、2間口の可能性と言う話をしてきたかと思うんですけども、これは例えば2間口の人数がありました。でまた、何年かしたら、減りました。また何年かしたらまた増える。こういうよ

うな形はあり得る形なんですか。

○生涯学習課長

まだ実際そういうふうになるのか、私どもは把握してございませんけども、今回7月の8日に岸本教育長が北海道の教育長の新しい高校づくり推進室の担当の参事、その他の所管等々協議を行ってございます。内容につきましては平成29年度募集定員の増に向けた要望活動についてということで協議のお話しの方をしているところでございます。その中で教育長からは、現段階の清里高校の希望状況についての説明、最初のアンケートでは26名程度だったのが、その後の調査等で増えて39名。また、今現在でも聞き取りは進めておりますが、そういうようなことの場合、説明をしているところでございます。道教委の方からは、状況等については理解をしていくといただいたところでございますけども、今現在39とか40でございまして、少なくとも調査等である程度の45名以上は必要だというような話もされているというふうにも聞いてございます。

そんなこともありまして、また再度先ほど言いましたけども今週小清水中学校、それから清里中学校の3年生に対して、2間口になった場合の進路希望調査をしているところでございます。なお、斜里中学校その他の中学校につきましても、中学校を通して聞ける範囲で状況把握をしているところでございます。先ほど45以上必要という話をしましたけどやはり道教委からは、知事部局に要望するにあたっては、しっかりとある程度根拠がやっぱり必要だという話も聞いてございます。蓋をあけて40人以下になることは避けたいというような話もされておりました、その後の信頼関係にも影響するというのは実はございます。間口を増やした例は確かに余りないってことというふうに聞いてございますが、平成20年度だったと思いますけども、天塩高校が2間口になったというふうに聞いてございます。今調査をやってございますけども7月下旬か遅くとも8月の第1週ぐらいまでに数値を求めて要望するかしないかも含めた判断が出てくるのかなというふうに思っているところでございます。また先ほど言いましたが、その20日に地域別の検討会議がございまして、その中でも岸本教育長が出席、宇野副町長も出席しますが、その中でも間口増の要望についての発言をする予定というふうになってございます。年度ごとに押さえていませんけれども、来年度29年度は、間口の関係について数値をしっかりと押さえながら、要望するかしないかも含めて検討しているということでご理解をいただきたいと思っております。

○勝又委員長

よろしいですか。他委員さんから。池下委員。

○池下委員

4ページの清里高校の1年生の意見とあるんです。これは現場の声として、生の声だと思うんです。これを踏まえた上で、教育委員会としてこういったことをどのように改善していこうかというふうな会議等は、教育委員さんひっくるめて、どの程度の頻度で、こういった会議を設けているのかなというふうにちょっと思ったんですけど。

○勝又委員長

課長。

○生涯学習課長

このアンケートにつきましては、5月の末に実施しまして、その後結果につきまして、教育委員協議会等、また教育委員会を開催し、委員さんに提供し、協議会を行っているところでございます。またこの後になりますけれども中高連絡協議会、小中校連携会議を開催しその中で協議することとしておりますし、教育委員会の中でこういう自由記載欄の意見があったということで内部協議を進めているところでございます。

○勝又委員長

池下委員。

○池下委員

私も一通り読んで、これは無理だとか、これはやればできるなという部分もあるんですよ。うちの町も5ページにあるようにいろいろな総合支援対策事業ということで、やってはいるんですけども、例えば清里中学校の生徒の意見の中で、センター試験に対応できるような勉強法を早いうちからやりたいとか、そういう意見が出ているというのは、大学進学を目指している子もいるんなら、ちゃんと提供してやりたいですよ。こういうことを踏まえた上で、早期にこういった対策が出来る、出来ないのか。そこら辺を町ぐるみで清里高校を応援していくっていうことであれば、こういった生の声を取り入れていくようにしないと。いつまでも地域にあるからという高校だけになってしまうと思います。そこら辺は、進学校である南高とか北斗とかは別ですがかもしれないけど、そういった対策はできるのであればやっていただきたいというふうに、私は思うんですよ。

○生涯学習課長

今例に出されましたセンター試験の対応を早い段階からできないかと言うような御意見等もでございます。そういうような意見、また進学の関係についても5ページにあります進路指導強化対策費補助の中でできないかとか、中でも見直し等も含めました中で、捨てるもの。またできるか解りませんけれども、制服を変えてほしいとか、それについては高校と連絡をとりながら、出来るか出来ないかを含めながら、この関係については、生徒からの生の声ということで理解しておりますので、捨てるものについては捨て、実現できるものについては高校支援対策の中で行っていきたいというふうに考えてございますが、その辺について、今後十分内部で精査しながら進めていきたいと思っております。

○勝又委員長

良いですか。無ければ1番、2番関連して。池下委員。

○池下委員

議案などはないですけども、清里高校のことで、小清水から10数名きているという中で、いじめ等とかですか。やはり環境が変わることにやっばそういったことが発生する可能性は十分あり得ると思うんですけども、清里高校に関しては、教育委員会とかそういった情報は入って

ないですか。

○勝又委員長

課長。

○生涯学習課長

今回、清里中学校だけでなく小清水中学校それから斜里中学校から9名ということで、他の中学校からかなりの生徒が来ているということで、心配をしていたんですけども、逐次高校のほうに連絡とりまして、校長先生、教頭先生等からお話を聞いているところがございますけども、本当にどの中学校から来た生徒か解らないぐらいに馴染んでいるという話、仲良くしていると話を聞いているところがございます。

他のところから、実は不登校だった子も含めて、清里のほうには通われているというようなことを聞いておりますし、ただ斜里から来られている方が、長期休んでいると聞いておりますが、何回か間を置いて来ているということもありました。他のところではなかなか通学できないけれど、清里高校で来ているという方もおりますし、現在いじめ等の問題については、聞いてはおりませんけれど、今後、そういう関係含めまして、学校と連絡を取りながら状況等は把握していきたいとおもっております。

○勝又委員長

池下委員。

○池下委員

学校の子供たちって学校の先生の前でいじめたりはしない。それで割とチクったりすると逆にいじめられるとか、小学校、幼稚園のうちからあるんですよ。当然高校に入ってもあると思うんですよ。それで、例えば心の中で思っている、言えない子はいると思うんですよ。清里高校に通いだしても、もう3カ月が過ぎたわけですけども、学校側と行政、教育委員会が話し合っ解決できない問題はいっぱいあるんですけども、いじめに関しては、全国どこでもあると思うんですけど、ぜひ生徒に無記名のいじめの調査をやっていただきたいと思うんですよ。これは言葉で相談をするという子は、なかなかいないですよ。親にも言わないんですよ。でも無記名でアンケートをやることによって、必ず何かが出てくるはずなんですよ。是非行政としてやっていただきたいというふうに私は強く思うんですけど。

○生涯学習課長

今言われたとおり、いじめにつきましては、どこでも起こり得るという考えで、今後進めていかなきゃならないと思ってございます。今御提案のありましたアンケート調査でございますけども、高校で現在どのような調査をやっているか含めまして、それら把握しながら、高校と相談しながら可能であれば実施をしたいというふうに思いますが、高校と十分検討させていただきたいと思っております。

○勝又委員長

他ありませんか。無ければ、生涯学習課終わりたいと思います。ご苦労様でした。

○勝又委員長

2. 次回の委員会の開催について。局長。

○議会事務局長

次回の委員会につきましては、8月8日月曜日でございます。

○勝又委員長

3. その他、委員の方でその他ございませんでしょうか。
無ければ、事務局から。

○議会事務局長

ございません。

●閉会の宣告

○勝又委員長

それでは、第8回総務文教常任委員会を終わらせていただきます。どうもご苦労様でした。

(閉会 午前 9時42分)